

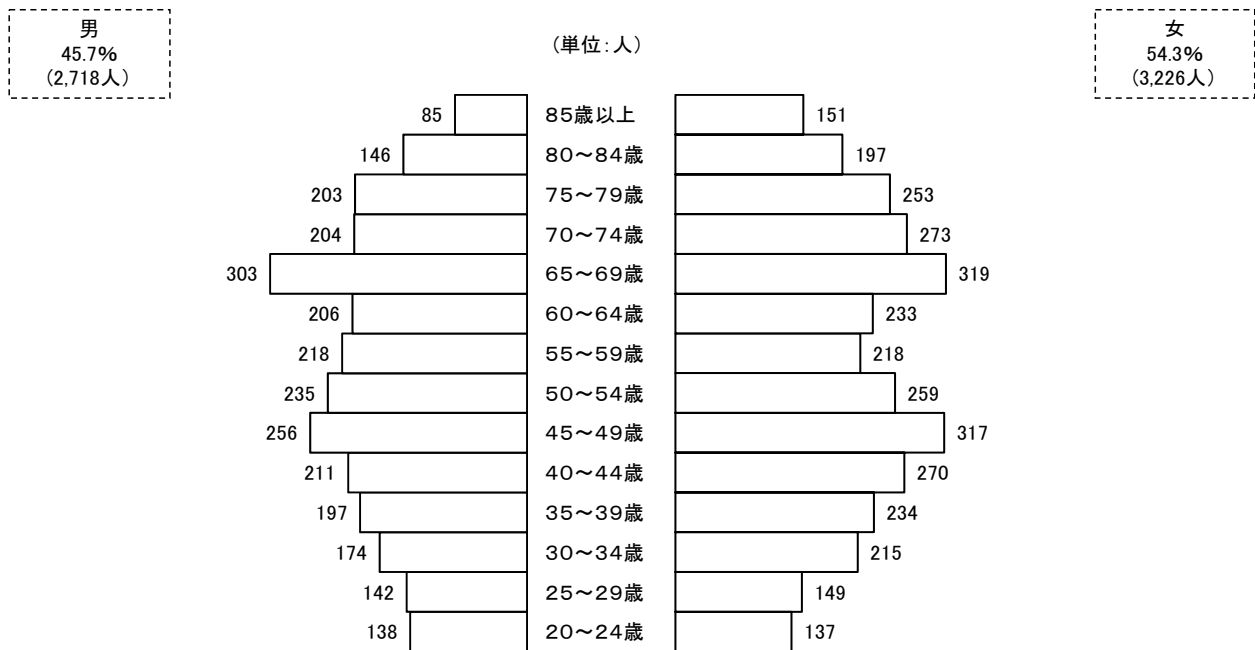
第2部 福祉のまちづくり等に関する実態と意識

本調査の「福祉のまちづくり等に関する実態と意識票」は、調査対象者の福祉のまちづくり、子育て支援、障害者支援、地域福祉等に関する意識について、調査したものである。

集計対象世帯 3,466 世帯の満 20 歳以上の世帯員 6,700 人を調査対象とし、5,944 人から回答を得た。

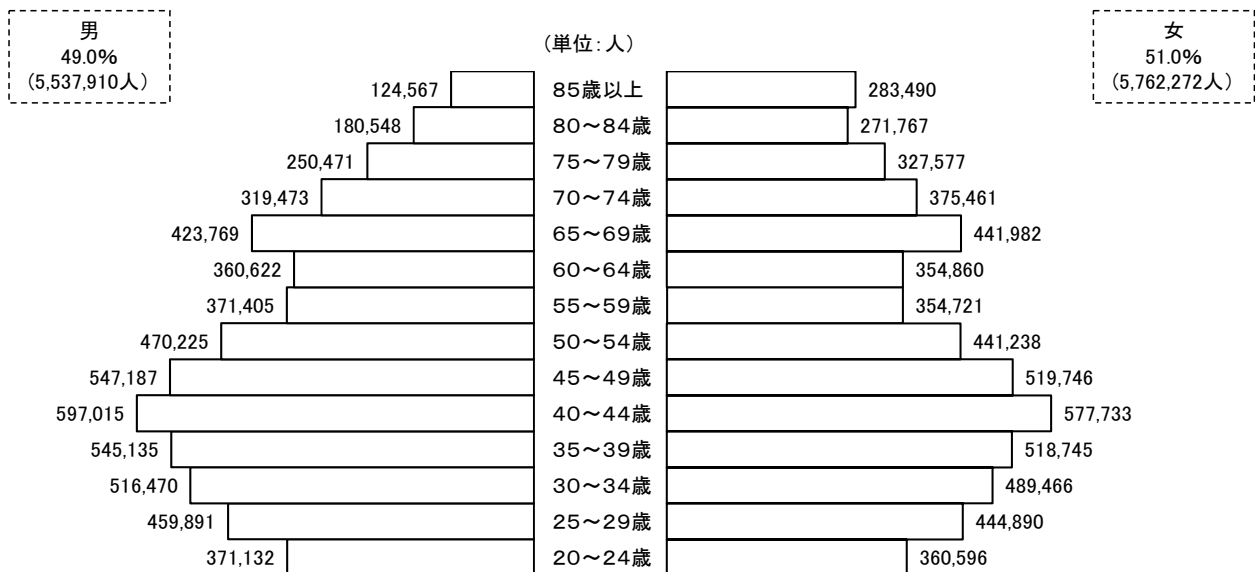
回答者の性・年齢階級の内訳については、次のとおりである。(図 1)

図 1 回答者の性・年齢階級



注) 女性 3,226 人には、それぞれ年齢無回答の人を含むため、内訳の総数と一致しない。

《参考》住民基本台帳による東京都の世帯と人口（平成 28 年 1 月 1 日）（総務局）



第1章 日常よく出かけるところに着くまでのバリア

1 外出時の状況等

(1) 外出時の状況等〔複数回答〕

「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人の割合は 6.6%

外出時の状況等（8項目）について聞いたところ、(1)～(5)の項目を合わせた「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人の割合は 6.6%、「何らかの理由があるために、外出の際、周囲の支援や理解が必要である」人の割合は 4.7%となっている。

また、「乳幼児を連れて外出することがある」人の割合は 9.6%となっている。（表Ⅱ-1-1）

表Ⅱ-1-1 外出時の状況等〔複数回答〕

	総数	はい	いいえ	無回答	
何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である 6.6 (390人)	(1)視覚に障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (5,944)	1.5 (88)	98.1 (5,830)	0.4 (26)
	(2)聴覚に障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (5,944)	1.9 (112)	97.6 (5,804)	0.5 (28)
	(3)肢体に障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (5,944)	4.0 (237)	95.5 (5,678)	0.5 (29)
	(4)体の内部に障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である	100.0 (5,944)	2.3 (139)	97.2 (5,775)	0.5 (30)
	(5)その他障害があるために、外出の際、何らかの機器や介助者が必要である	100.0 (5,944)	2.5 (148)	97.0 (5,763)	0.6 (33)
	(6)何らかの理由があるために、外出の際、周囲の支援や理解が必要である	100.0 (5,944)	4.7 (282)	94.7 (5,629)	0.6 (33)
	(7)乳幼児を連れて外出することがある	100.0 (5,944)	9.6 (568)	89.6 (5,328)	0.8 (48)
	(8)現在妊娠している	100.0 (3,226)	1.0 (32)	96.6 (3,115)	2.4 (79)

注)「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」の人数は、(1)～(5)の項目のいずれかひとつ以上に「はい」と答えた者の合計である。

「外出時の状況等」と「年齢」から、「外出時グループ」として、以下のとおり3つに区分した。

外出時グループ（3区分）

1 外出時の障害ありグループ

外出時の状況等(1)～(5)いずれかひとつ以上に「はい」と答えた者（390人）

※上記「外出時に何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」と同じ

2 乳幼児連れグループ

外出時の状況等(7)に「はい」と答えた者（568人）

3 高齢者グループ

年齢が65歳以上の者（2,137人）

(2) 外出時の状況等（外出時の障害の有無）－性・年齢階級別

「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人の割合は、80歳以上では、男性28.0%、女性36.5%

外出時の状況等（福祉機器や介助者の必要性の有無）を性・年齢階級別にみると、「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人の割合は、80歳以上では、男性28.0%、女性36.5%で、女性の方が8.5ポイント高くなっている。（表Ⅱ-1-2）

表Ⅱ-1-2 外出時の状況等（外出時の障害の有無）－性・年齢階級別

	総数	介に何 助、ら 者外か が出の が必の 要際障 であ害 る福 る 社 機 器 や	必要 ない	無 回 答
総数	100.0 (5,944)	6.6	92.8	0.6
男	100.0 (2,718)	6.3	93.0	0.7
20～29歳	100.0 (280)	1.1	97.9	1.1
30～39歳	100.0 (368)	1.1	98.4	0.5
40～49歳	100.0 (468)	1.7	97.9	0.4
50～59歳	100.0 (453)	4.4	95.4	0.2
60～69歳	100.0 (508)	6.5	92.7	0.8
70～79歳	100.0 (409)	9.3	89.0	1.7
80歳以上	100.0 (232)	<u>28.0</u>	71.6	0.4
(再掲)65歳以上	100.0 (943)	13.5	85.3	1.3
女	100.0 (3,226)	6.8	92.7	0.6
20～29歳	100.0 (285)	0.4	98.9	0.7
30～39歳	100.0 (448)	0.7	98.9	0.4
40～49歳	100.0 (589)	1.4	98.1	0.5
50～59歳	100.0 (478)	2.1	97.3	0.6
60～69歳	100.0 (551)	1.6	97.6	0.7
70～79歳	100.0 (526)	11.6	87.6	0.8
80歳以上	100.0 (348)	<u>36.5</u>	63.5	-
(再掲)65歳以上	100.0 (1,194)	16.4	83.2	0.4

(3) 外出時の状況等（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）〔複数回答〕一性・年齢階級別

「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人のうち、「肢体に障害がある」人の割合は、6割

「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人（390人）のうち、「肢体に障害がある」人の割合は60.8%で、6割となっている。

性別にみると、男女ともに「肢体に障害がある」人の割合が最も高く、男性49.7%、女性69.4%で、女性の方が19.7ポイント高くなっている。（表Ⅱ-1-3）

表Ⅱ-1-3 外出時の状況等（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	(1) 視覚に障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である	(2) 聴覚に障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である	(3) 肢体に障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である	(4) 内部に障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である	(5) その他の障害があるため、外出の際、福祉器具や介助者が必要である
総数	100.0 (390)	22.6	28.7	<u>60.8</u>	35.6	37.9
男	100.0 (171)	28.1	34.5	<u>49.7</u>	37.4	38.6
20～29歳	100.0 (3)	66.7	33.3	66.7	33.3	100.0
30～39歳	100.0 (4)	75.0	50.0	25.0	25.0	75.0
40～49歳	100.0 (8)	37.5	12.5	37.5	37.5	62.5
50～59歳	100.0 (20)	20.0	40.0	45.0	25.0	55.0
60～69歳	100.0 (33)	36.4	24.2	39.4	39.4	30.3
70～79歳	100.0 (38)	23.7	39.5	47.4	36.8	34.2
80歳以上	100.0 (65)	23.1	36.9	60.0	41.5	32.3
(再掲)65歳以上	100.0 (127)	26.0	35.4	52.8	37.8	33.9
女	100.0 (219)	18.3	24.2	<u>69.4</u>	34.2	37.4
20～29歳	100.0 (1)	-	-	100.0	-	-
30～39歳	100.0 (3)	-	-	66.7	66.7	66.7
40～49歳	100.0 (8)	-	-	62.5	-	50.0
50～59歳	100.0 (10)	20.0	-	70.0	20.0	40.0
60～69歳	100.0 (9)	44.4	44.4	88.9	44.4	55.6
70～79歳	100.0 (61)	21.3	16.4	55.7	36.1	23.0
80歳以上	100.0 (127)	16.5	30.7	74.8	35.4	41.7
(再掲)65歳以上	100.0 (196)	18.9	26.5	69.4	35.7	36.2

(4) 外出時の障害ありグループ・性・年齢階級別

「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人の8割は、65歳以上

「何らかの障害があるために、外出の際、福祉機器や介助者が必要である」人(390人)を性・年齢階級別にみると、男女とも80歳以上の割合が最も高く、男性38.0%、女性58.0%となっている。

また、65歳以上が全体の82.8%を占め、男性は74.3%、女性は89.5%で、女性の方が15.2ポイント高くなっている。(表Ⅱ-1-4)

表Ⅱ-1-4 外出時の障害ありグループ・性・年齢階級別

	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(再掲) 65歳以上
総数	100.0 (390)	1.0 (4)	1.8 (7)	4.1 (16)	7.7 (30)	10.8 (42)	25.4 (99)	49.2 (192)	<u>82.8</u> (323)
男	100.0 (171)	1.8 (3)	2.3 (4)	4.7 (8)	11.7 (20)	19.3 (33)	22.2 (38)	<u>38.0</u> (65)	<u>74.3</u> (127)
女	100.0 (219)	0.5 (1)	1.4 (3)	3.7 (8)	4.6 (10)	4.1 (9)	27.9 (61)	<u>58.0</u> (127)	<u>89.5</u> (196)

(5) 外出時の状況等（外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無）

一性・年齢階級別

「何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある」人の割合は、80歳以上では、男性15.1%、女性21.3%

外出時の状況等（外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無）を性・年齢階級別にみると、「何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある」人の割合は、80歳以上では、男性15.1%、女性21.3%で、女性の方が6.2ポイント高くなっている。（表Ⅱ-1-5）

表Ⅱ-1-5 外出時の状況等（外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無）

一性・年齢階級別

	総数	はい	いいえ	無回答
総数	100.0 (5,944)	4.7	94.7	0.6
男	100.0 (2,718)	4.2	95.1	0.6
20～29歳	100.0 (280)	2.5	96.4	1.1
30～39歳	100.0 (368)	1.6	97.8	0.5
40～49歳	100.0 (468)	3.0	96.6	0.4
50～59歳	100.0 (453)	4.0	96.0	-
60～69歳	100.0 (508)	3.5	95.9	0.6
70～79歳	100.0 (409)	4.2	94.6	1.2
80歳以上	100.0 (232)	<u>15.1</u>	84.1	0.9
(再掲)65歳以上	100.0 (943)	7.2	91.8	1.0
女	100.0 (3,226)	5.2	94.3	0.5
20～29歳	100.0 (285)	2.5	96.8	0.7
30～39歳	100.0 (448)	4.2	95.3	0.4
40～49歳	100.0 (589)	2.5	97.1	0.3
50～59歳	100.0 (478)	3.6	96.4	-
60～69歳	100.0 (551)	1.6	97.6	0.7
70～79歳	100.0 (526)	4.9	94.5	0.6
80歳以上	100.0 (348)	<u>21.3</u>	77.9	0.9
(再掲)65歳以上	100.0 (1,194)	9.0	90.5	0.6

(6) 外出時の状況等（外出時の乳幼児連れの有無）－性・年齢階級別

「乳幼児を連れて外出をすることがある」人の割合は、30代では、男女ともに3割超

外出時の状況等（外出時の乳幼児連れの有無）を性・年齢階級別にみると、「乳幼児を連れて外出をすることがある」人の割合は、男女ともに30代が最も高く、男性33.2%、女性39.7%となっている。（表Ⅱ-1-6）

表Ⅱ-1-6 外出時の状況等（外出時の乳幼児連れの有無）－性・年齢階級別

	総 数	す 乳 幼 こ 児 と を が 連 あ れ て 外 出	す 乳 幼 こ 児 と を が 連 な れ て 外 出	無 回 答
総数	100.0 (5,944)	9.6	89.6	0.8
男	100.0 (2,718)	8.9	90.1	1.0
20～29歳	100.0 (280)	6.1	92.9	1.1
30～39歳	100.0 (368)	<u>33.2</u>	65.8	1.1
40～49歳	100.0 (468)	12.4	87.0	0.6
50～59歳	100.0 (453)	2.6	97.1	0.2
60～69歳	100.0 (508)	3.3	95.5	1.2
70～79歳	100.0 (409)	3.2	95.1	1.7
80歳以上	100.0 (232)	0.9	97.4	1.7
(再掲)65歳以上	100.0 (943)	2.8	95.4	1.8
女	100.0 (3,226)	10.1	89.2	0.6
20～29歳	100.0 (285)	10.9	88.4	0.7
30～39歳	100.0 (448)	<u>39.7</u>	60.0	0.2
40～49歳	100.0 (589)	9.8	90.0	0.2
50～59歳	100.0 (478)	2.7	97.3	-
60～69歳	100.0 (551)	6.7	92.2	1.1
70～79歳	100.0 (526)	1.5	97.5	1.0
80歳以上	100.0 (348)	0.6	98.0	1.4
(再掲)65歳以上	100.0 (1,194)	2.3	96.6	1.1

(7) 乳幼児連れグループ性・年齢階級別

「乳幼児を連れて外出することがある」人の8割は、20代～40代

「乳幼児を連れて外出することがある」人（568人）を性・年齢階級別にみると、男女ともに30代の割合が最も高く、男性50.6%、女性54.4%となっている。

また、20代、30代、40代を合わせると、男女ともに81.7%で、8割となっている。（表Ⅱ-1-7）

表Ⅱ-1-7 乳幼児連れグループ性・年齢階級別

	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(再掲) 65歳以上
総数	100.0 (568)	8.5 (48)	52.8 (300)	20.4 (116)	4.4 (25)	9.5 (54)	3.7 (21)	0.7 (4)	9.5 (54)
男	100.0 (241)	7.1 (17)	<u>50.6</u> (122)	24.1 (58)	5.0 (12)	7.1 (17)	5.4 (13)	0.8 (2)	10.8 (26)
		81.7							
女	100.0 (327)	9.5 (31)	<u>54.4</u> (178)	17.7 (58)	4.0 (13)	11.3 (37)	2.4 (8)	0.6 (2)	8.6 (28)
		81.7							

(8) 外出時の状況等（妊娠の有無）一年齢階級別

「妊娠している」人の割合は、20代女性2.5%、30代女性5.1%

外出時の状況等（妊娠の有無）を年齢階級別にみると、「妊娠している」人の割合は、20代は2.5%、30代は5.1%となっている。（表Ⅱ-1-8）

表Ⅱ-1-8 外出時の状況等（妊娠の有無）一年齢階級別

	総数	妊娠している	妊娠していない	無回答
総数	100.0 (3,226)	1.0	96.6	2.4
20～29歳	100.0 (285)	<u>2.5</u>	95.1	2.5
30～39歳	100.0 (448)	<u>5.1</u>	92.6	2.2
40～49歳	100.0 (589)	0.3	98.0	1.7
50～59歳	100.0 (478)	-	97.7	2.3
60～69歳	100.0 (551)	-	96.7	3.3
70～79歳	100.0 (526)	-	97.5	2.5
80歳以上	100.0 (348)	-	97.1	2.9
(再掲)65歳以上	100.0 (1,194)	-	97.2	2.8

注) 本問は、女性（3,226人）のみに回答を求めている。

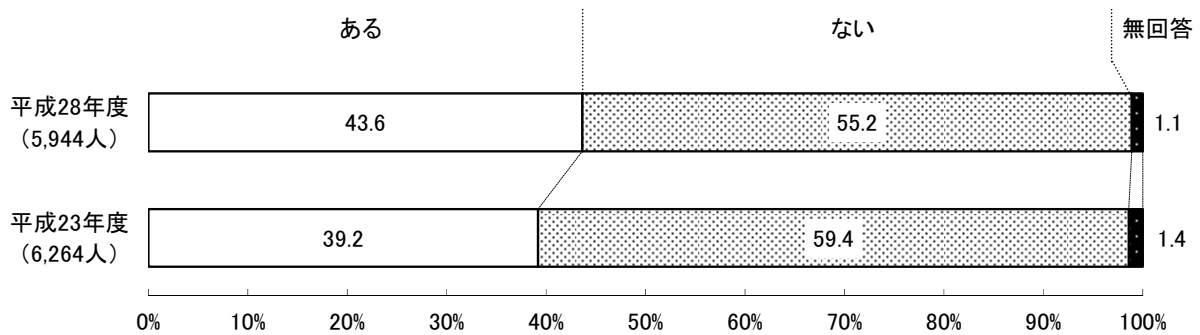
2 日常よく出かけるところに着くまでのバリア

(1) 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無－平成 23 年度調査と比較

「バリアがある」の割合は 4 割

日常よく出かけるところ（職場、学校、買い物先など）に着くまでに、道路や駅、電車やバスなどで、バリアフリー化が進んでいないために、不便や不安（以下「バリア」という。）を感じるところがあるかを聞いたところ、「ある」の割合は 43.6%で、平成 23 年度調査と比べると、4.4 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-1-1）

図Ⅱ-1-1 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無－平成 23 年度調査と比較



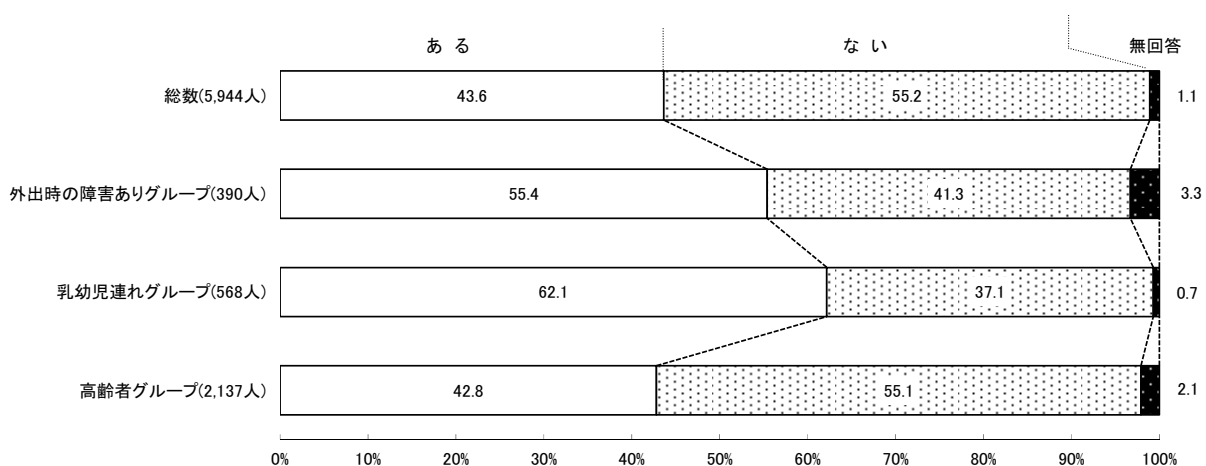
ア 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無－外出時グループ別

「バリアがある」の割合は、乳幼児連れグループでは、6割

日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無を外出時グループ別にみると、バリアを感じるところが「ある」の割合は、外出時の障害ありグループは 55.4%で、総数（43.6%）と比べて 11.8 ポイント高くなっている。

また、乳幼児連れグループは 62.1%で、総数（43.6%）と比べて 18.5 ポイント高くなっている。（図Ⅱ-1-2）

図Ⅱ-1-2 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無－外出時グループ別



イ 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無一性・年齢階級別

「バリアがある」の割合は、女性の方が高い

日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無を性別にみると、バリアを感じるところが「ある」の割合は、男性 37.1%、女性 49.1%で、女性の方が 12.0 ポイント高くなっている。
(表Ⅱ-1-9)

表Ⅱ-1-9 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの有無一性・年齢階級別

	総数	ある	ない	無回答
総数	100.0 (5,944)	43.6	55.2	1.1
男	100.0 (2,718)	<u>37.1</u>	61.8	1.0
20～29歳	100.0 (280)	27.9	70.7	1.4
30～39歳	100.0 (368)	36.1	63.0	0.8
40～49歳	100.0 (468)	35.0	64.7	0.2
50～59歳	100.0 (453)	36.9	62.9	0.2
60～69歳	100.0 (508)	40.0	58.9	1.2
70～79歳	100.0 (409)	39.1	59.4	1.5
80歳以上	100.0 (232)	44.8	52.2	3.0
(再掲)65歳以上	100.0 (943)	40.3	58.0	1.7
女	100.0 (3,226)	<u>49.1</u>	49.7	1.2
20～29歳	100.0 (285)	35.4	63.2	1.4
30～39歳	100.0 (448)	59.8	39.7	0.4
40～49歳	100.0 (589)	50.4	49.2	0.3
50～59歳	100.0 (478)	55.2	44.8	-
60～69歳	100.0 (551)	47.4	51.0	1.6
70～79歳	100.0 (526)	45.2	52.5	2.3
80歳以上	100.0 (348)	44.5	52.6	2.9
(再掲)65歳以上	100.0 (1,194)	44.8	52.8	2.3

(2) 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕

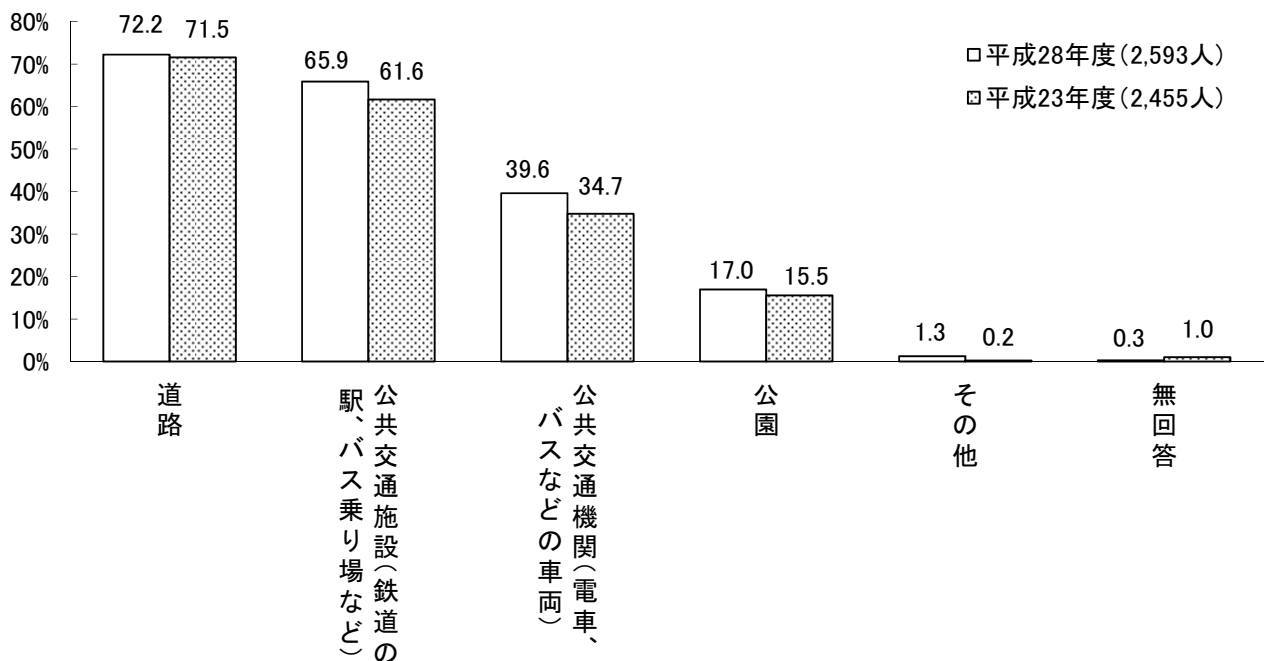
—平成23年度調査との比較

バリアを感じる箇所は、「道路」は7割、「公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）」は6割超

日常よく出かけるところに着くまでにバリアを感じるところが「ある」人（2,593人）に、バリアを感じる箇所を聞いたところ、「道路」の割合が72.2%で最も高く、次いで、「公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）」が65.9%となっている。（図Ⅱ-1-3）

図Ⅱ-1-3 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕

—平成23年度調査との比較



ア 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕－地域別

「道路」の割合は、区部より市町村部の方が高く、「公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）」の割合は、市町村部より区部の方が高い

バリアの箇所を地域別にみると、「道路」の割合は、区部は 69.8%、市町村部は 76.7%で、市町村部の方が 6.9 ポイント高くなっている。

一方、「公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）」の割合は、区部は 67.9%、市町村部は 62.0%で、区部の方が 5.9 ポイント高くなっている。

区中央部は、「公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）」が 79.7%で最も高く、次いで「道路」が 62.8%となっている。（表Ⅱ-1-10）

表Ⅱ-1-10 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕－地域別

	総数	道路	公園	乗（公 り鉄共 場道交 なの通 ど駅施 ）の設 バス	車（公 両電共 ）車交 、通 バス機 等関 の	その他	無回答
総数	100.0 (2,593)	72.2	17.0	65.9	39.6	1.3	0.3
区部	100.0 (1,721)	<u>69.8</u>	16.2	<u>67.9</u>	40.2	1.5	0.3
区中央部	100.0 (172)	<u>62.8</u>	12.8	<u>79.7</u>	38.4	1.7	-
区南部	100.0 (200)	74.0	16.0	65.0	39.5	0.5	-
区西南部	100.0 (271)	72.0	16.2	71.2	44.6	1.1	-
区西部	100.0 (214)	70.6	17.8	66.8	41.1	0.5	-
区西北部	100.0 (367)	69.8	14.2	64.3	37.9	1.1	0.5
区東北部	100.0 (255)	69.8	18.8	67.1	41.6	0.8	0.4
区東部	100.0 (242)	68.6	17.8	65.7	38.4	4.5	0.8
市・町・村部	100.0 (872)	<u>76.7</u>	18.6	<u>62.0</u>	38.3	1.1	0.2
西多摩	100.0 (93)	78.5	18.3	53.8	38.7	1.1	2.2
南多摩	100.0 (326)	73.0	16.6	66.3	37.4	0.6	-
北多摩西部	100.0 (89)	79.8	20.2	55.1	41.6	1.1	-
北多摩南部	100.0 (192)	81.8	22.4	57.8	32.8	2.6	-
北多摩北部	100.0 (172)	75.6	17.4	66.9	44.2	0.6	-

注) 本報告書における「地域」とは、集計対象者の居住地域を示すものである。

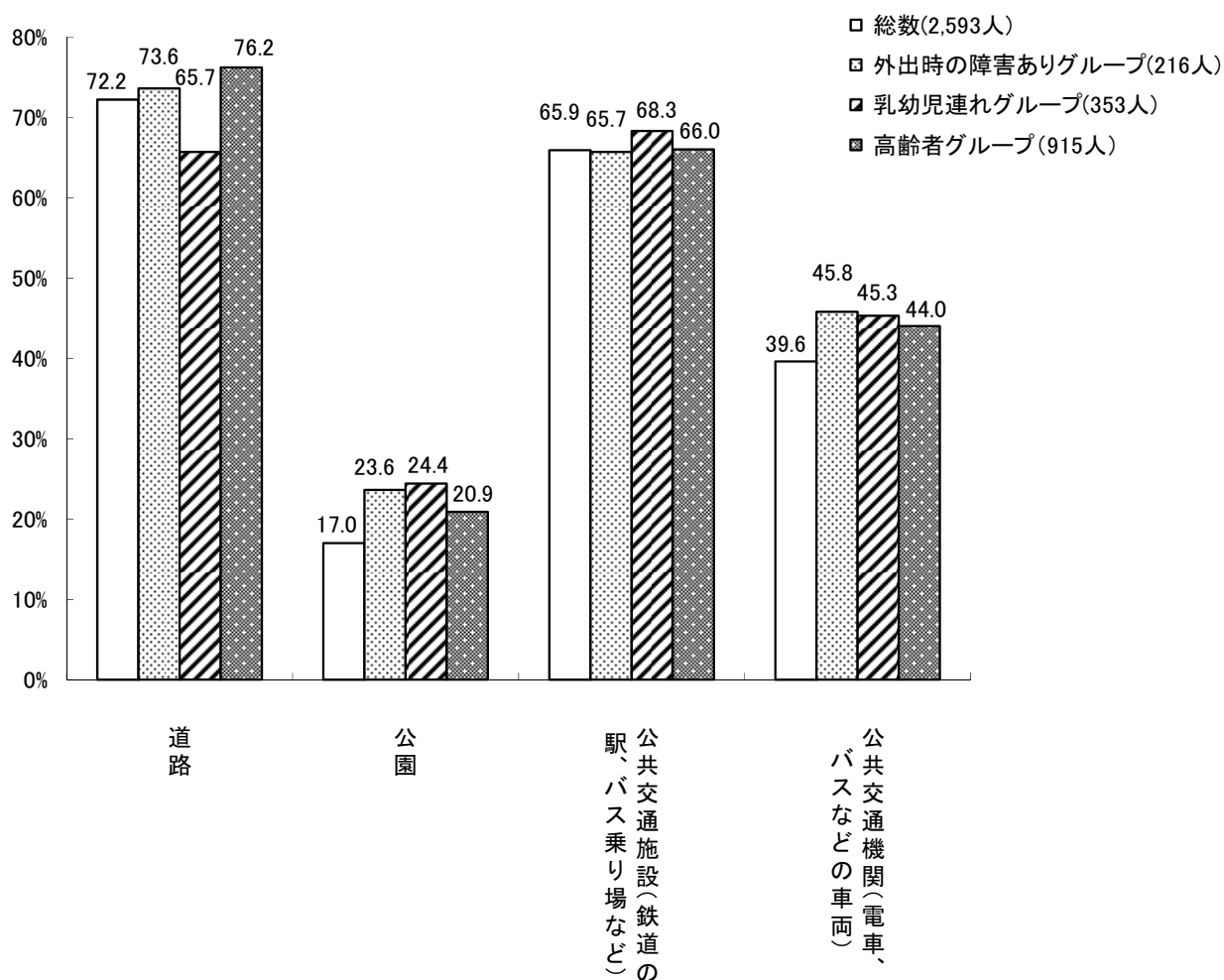
イ 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕－外出時グループ別

乳幼児連れグループは、「公園」の割合が総数に比べて高く、「道路」の割合が総数に比べて低い

バリアの箇所を外出時グループ別にみると、乳幼児連れグループは、「公園」の割合が24.4%で、総数に比べて、7.4ポイント高くなっている。また、「道路」の割合は65.7%で総数に比べて6.5ポイント低くなっている。(図Ⅱ-1-4)

図Ⅱ-1-4 日常よく出かけるところに着くまでのバリアの箇所〔複数回答〕

－外出時グループ別

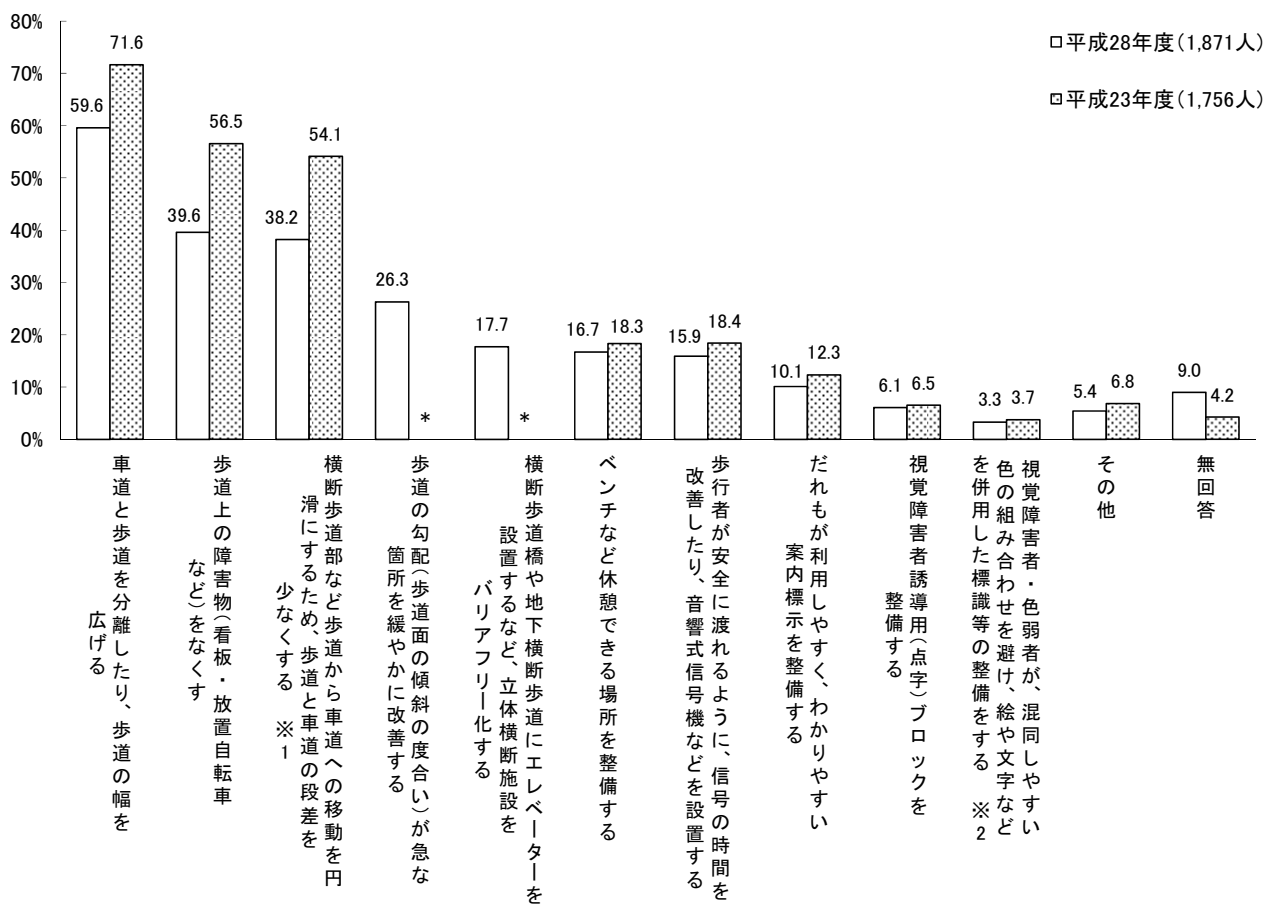


(3) 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕－平成23年度調査との比較

「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高く、約6割

道路でバリアを感じるところが「ある」人(1,871人)に、道路を利用しやすくするためにどのような整備が必要だと思うか聞いたところ、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が59.6%で最も高く、次いで、「歩道上の障害物(看板・放置自転車など)をなくす」が39.6%、「横断歩道部など歩道から車道への移動を円滑にするため、歩道と車道の段差を少なくする」が38.2%となっている。(図Ⅱ-1-5)

図Ⅱ-1-5 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕－平成23年度調査との比較



注) 本調査では、新規項目として「歩道の勾配(歩道面の傾斜の度合い)が急な箇所を緩やかに改善する」と「横断歩道橋や地下横断歩道にエレベーターを設置するなど、立体横断施設をバリアフリー化する」の2項目で回答を求めている。

また、平成23年度調査では、※1は「横断歩道など歩道から車道への移動を円滑にするため、歩道の段差を少なくする」、※2は「視覚障害者(色覚障害者を含む)が、混同しやすい色の組み合わせを避け、絵や文字などを併用した標識等の整備をする」としていた。

ア 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕－性・年齢階級別

男女ともにすべての年齢階級において、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高い

道路で整備が必要なことを性・年齢階級別にみると、男女ともにすべての年齢階級において、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高くなっている。

また、「歩道上の障害物（看板・放置自転車など）をなくす」の割合は、男性は42.5%、女性は37.8%で、男性の方が4.7ポイント高くなっている。（表Ⅱ-1-11）

表Ⅱ-1-11 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	幅車道と歩道を広げる	移動の段差を少なくする	横断歩道など歩道から歩道への円滑にするため、歩道と車の段差を少なくする	歩道が急な箇所を緩やかに改善する	歩道上の障害物（看板・放置自転車など）をなくす	信号機の時間を改善したり、音響式	横断歩道橋や地下横断歩道に工断施設をパリアップするなど、立体横断歩道を設置する	すだれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する	視覚障害者誘導用（点字）ブロックを整備する	視覚障害者・色弱者が、混同しやすい色を組み合わせた標識等の整備	ベンチなど休憩できる場所を整備	その他	無回答
総数	100.0 (1,871)	59.6	38.2	26.3	39.6	15.9	17.7	10.1	6.1	3.3	16.7	5.4	9.0	
男	100.0 (723)	58.9	37.6	26.6	<u>42.5</u>	17.7	16.6	11.1	6.1	3.5	18.0	5.8	8.0	
20～29歳	100.0 (55)	<u>60.0</u>	32.7	21.8	45.5	23.6	16.4	12.7	9.1	5.5	12.7	3.6	9.1	
30～39歳	100.0 (80)	<u>72.5</u>	37.5	20.0	46.3	10.0	27.5	6.3	5.0	3.8	12.5	6.3	2.5	
40～49歳	100.0 (118)	<u>66.1</u>	38.1	26.3	42.4	15.3	12.7	8.5	5.9	0.8	11.9	7.6	11.0	
50～59歳	100.0 (119)	<u>58.0</u>	42.9	30.3	36.1	17.6	16.8	10.1	4.2	4.2	10.9	7.6	9.2	
60～69歳	100.0 (152)	<u>55.3</u>	42.1	24.3	46.1	21.1	18.4	15.1	6.6	3.9	18.4	5.9	6.6	
70～79歳	100.0 (121)	<u>51.2</u>	37.2	31.4	45.5	15.7	11.6	9.9	7.4	4.1	26.4	4.1	7.4	
80歳以上	100.0 (78)	<u>53.8</u>	24.4	28.2	34.6	21.8	15.4	14.1	5.1	2.6	33.3	3.8	10.3	
(再掲)65歳以上	100.0 (288)	54.5	34.7	27.8	44.4	20.1	14.9	10.8	6.9	4.2	26.0	4.9	6.9	
女	100.0 (1,148)	60.0	38.5	26.1	<u>37.8</u>	14.8	18.4	9.5	6.2	3.1	15.9	5.1	9.7	
20～29歳	100.0 (60)	<u>66.7</u>	21.7	15.0	38.3	23.3	18.3	13.3	6.7	5.0	15.0	8.3	6.7	
30～39歳	100.0 (154)	<u>74.7</u>	46.1	24.7	34.4	10.4	22.7	2.6	7.1	2.6	9.7	5.8	7.8	
40～49歳	100.0 (227)	<u>60.8</u>	38.8	22.9	34.8	11.9	17.2	5.7	8.8	2.2	9.7	7.9	10.6	
50～59歳	100.0 (203)	<u>62.1</u>	45.3	28.6	42.9	11.8	20.2	6.9	5.4	3.0	11.3	5.9	8.9	
60～69歳	100.0 (202)	<u>61.9</u>	35.6	27.2	44.1	15.8	21.8	11.9	3.0	5.0	16.3	2.0	11.4	
70～79歳	100.0 (182)	<u>54.4</u>	34.1	30.8	39.0	18.7	13.2	16.5	8.8	3.3	25.3	2.7	7.7	
80歳以上	100.0 (120)	<u>38.3</u>	36.7	26.7	26.7	19.2	14.2	13.3	2.5	1.7	29.2	5.0	13.3	
(再掲)65歳以上	100.0 (409)	50.4	35.5	28.6	35.7	19.1	16.4	14.7	5.6	3.4	24.2	3.4	10.3	

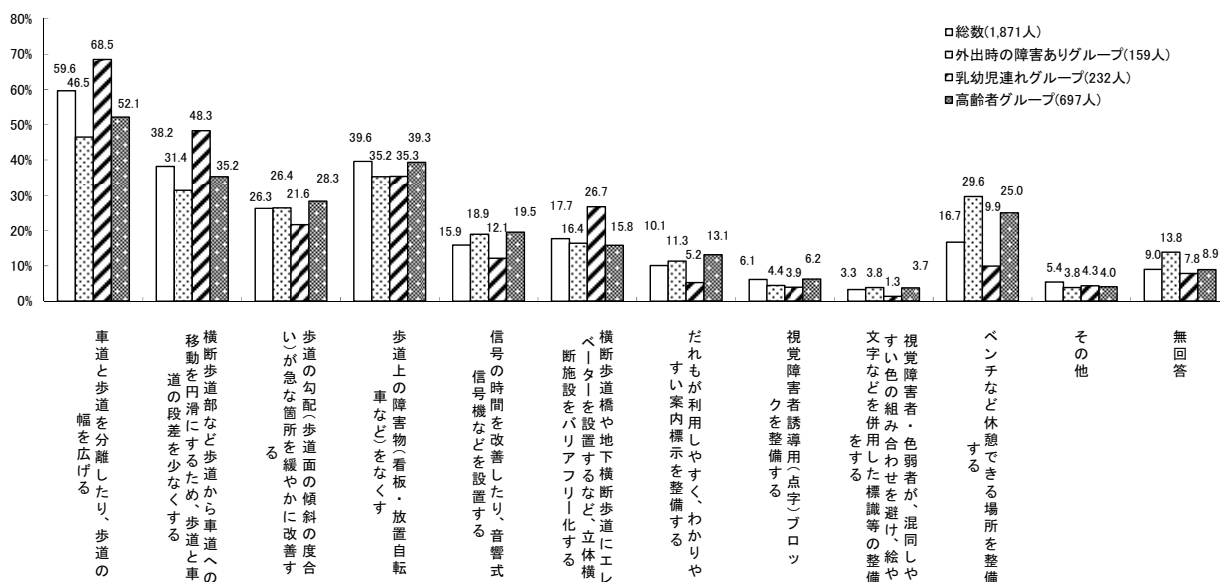
イ 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別

外出時の障害ありグループ、高齢者グループでは、「ベンチなど休憩できる場所の整備」の割合が、総数に比べて高い

道路で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」の割合は、外出時の障害ありグループは 29.6%、高齢者グループは 25.0%で、総数よりもそれぞれ 12.9 ポイント、8.3 ポイント高くなっている。

一方、乳幼児連れグループは、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が 68.5%、「横断歩道部など歩道から車道への移動を円滑にするため、歩道と車道の段差を少なくする」が 48.3%、「横断歩道橋や地下横断歩道にエレベーターを設置するなど、立体横断施設をバリアフリー化する」が 26.7%で、総数よりもそれぞれ高くなっている。(図Ⅱ-1-6)

図Ⅱ-1-6 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別



ウ 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

すべての障害において、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高い

道路で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、すべての障害において、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高くなっている。また、外出時に視覚の障害がある人は、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」の割合がともに 37.5%で最も高くなっている。（表Ⅱ-1-12）

表Ⅱ-1-12 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

	総数	車道と歩道を広げる	車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる	横断歩道部など歩道から車道の段差を円滑にするため、歩道と車道の段差を少なくする	歩道の勾配（歩道面の傾斜の度合い）が急な箇所を緩やかに改善する	歩道上の障害物（看板・放置自転車など）をなくす	信号機などを設置したり、音響式	信号機の時間を改善したり、音響式	横断歩道橋や地下横断歩道にエレベーターを設置するなど、立体横断施設をバリアフリー化する	すだれなどが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する	視覚障害者誘導用（点字）ブロックを整備する	視覚障害者・色弱者が、混同しやすい色の組み合わせを避け、絵や文字などを併用した標識等の整備	ベンチなど休憩できる場所を整備	その他	無回答
総数	100.0 (1,871)	59.6	38.2	26.3	39.6	15.9	17.7	10.1	6.1	3.3	16.7	5.4	9.0		
外出時に何らかの障害がある	100.0 (159)	46.5	31.4	26.4	35.2	18.9	16.4	11.3	4.4	3.8	29.6	3.8	13.8		
視覚	100.0 (32)	<u>37.5</u>	34.4	21.9	28.1	18.8	12.5	9.4	12.5	15.6	<u>37.5</u>	3.1	12.5		
聴覚	100.0 (47)	<u>55.3</u>	34.0	25.5	38.3	14.9	12.8	12.8	8.5	2.1	38.3	2.1	10.6		
肢体	100.0 (101)	<u>45.5</u>	32.7	30.7	28.7	16.8	19.8	9.9	1.0	2.0	29.7	2.0	15.8		
内部	100.0 (54)	<u>46.3</u>	37.0	29.6	29.6	13.0	24.1	13.0	1.9	1.9	37.0	1.9	13.0		
その他	100.0 (55)	<u>41.8</u>	27.3	23.6	40.0	16.4	18.2	7.3	5.5	5.5	34.5	5.5	16.4		
外出時に障害がない	100.0 (1,699)	60.8	38.9	26.4	40.1	15.5	17.8	9.9	6.2	3.2	15.5	5.6	8.6		

エ 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が最も高い

道路で整備が必要なことを外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「車道と歩道を分離したり、歩道の幅を広げる」の割合が48.8%で最も高く、次いで「歩道上の障害物（看板・放置自転車など）をなくす」が36.4%、「歩道の勾配（歩道面の傾斜の度合い）が急な箇所を緩やかに改善する」が28.1%となっている。（表Ⅱ-1-13）

表Ⅱ-1-13 道路で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

	総 数	車 道 と 歩 道 を 分 離 し た り 、 歩 道 の 幅 を 広 げ る	横 断 歩 道 部 な ど 歩 道 と 車 道 の 段 差 を 滑 に す る た め 、 歩 道 と 車 道 の 段 差 を 滑 に す る	歩 道 の 勾 配 （ 歩 道 面 の 傾 斜 の 度 合 い ） が 急 な 箇 所 を 緩 や か に 改 善 す る	歩 道 上 の 障 害 物 （ 看 板 ・ 放 置 自 転 車 な ど ） を な く す	信 号 機 な ど を 設 置 す る た り 、 音 響 式	横 断 歩 道 橋 や 地 下 横 断 歩 道 に エ レ ベ ー タ ー を 設 置 す る な ど 、 立 体 構 造 設 施 を バ リ ア フ リ ー 化 す る	だ れ も が 利 用 し や す く 、 わ か り や す い 案 内 標 示 を 整 備 す る	視 覚 障 害 者 誘 導 用 （ 点 字 ） ブ ロ ッ ク を 整 備 す る	視 覚 障 害 者 ・ 色 弱 者 が 、 混 同 し や す い 色 の 組 み 合 わ せ を 避 け 、 混 同 し や す い 文 字 な ど を 併 用 し た 標 識 等 の 整 備 を す る	ベ ン チ な ど 休 憩 で き る 場 所 を 整 備 す る	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,871)	59.6	38.2	26.3	39.6	15.9	17.7	10.1	6.1	3.3	16.7	5.4	9.0
何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (121)	48.8	25.6	28.1	36.4	11.6	21.5	11.6	6.6	7.4	25.6	5.8	12.4
何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要としない	100.0 (1,735)	60.3	39.1	26.2	39.9	16.1	17.4	10.0	6.1	2.9	16.2	5.4	8.8

(4) 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

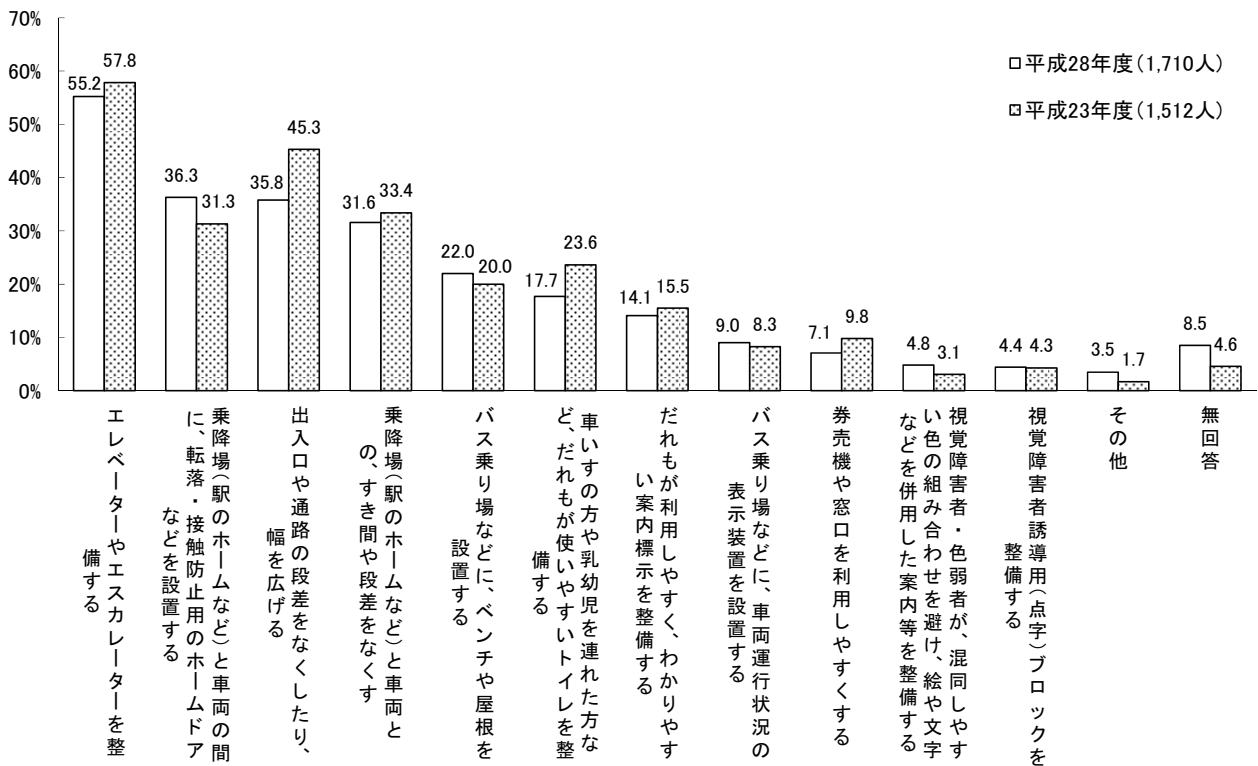
－平成23年度調査との比較

「エレベーターやエスカレーターの整備」の割合が最も高く、5割超

公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）でバリアを感じるところが「ある」人（1,710人）に、公共交通施設を利用しやすくするためにどのような整備が必要だと思うか聞いたところ、「エレベーターやエスカレーターを整備する」の割合が55.2%で最も高く、次いで、「乗降場（駅のホームなど）と車両の間に、転落・接触防止用のホームドアなどを設置する」が36.3%、「出入口や通路の段差をなくしたり、幅を広げる」が35.8%となっている。（図Ⅱ-1-7）

図Ⅱ-1-7 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－平成23年度調査との比較



ア 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

一性・年齢階級別

男女ともに「エレベーターやエスカレーターの整備」の割合が最も高く、5割

公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なことを性別にみると、男性は「エレベーターやエスカレーターを整備する」の割合が54.9%で最も高く、次いで、「出入口や通路の段差をなくしたり、幅を広げる」が39.6%となっている。一方、女性は「エレベーターやエスカレーターを整備する」の割合が55.4%で最も高く、次いで「乗降場（駅のホームなど）と車両の間に、転落・接触防止用のホームドアなどを設置する」が35.8%となっている。（表Ⅱ-1-14）

表Ⅱ-1-14 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

一性・年齢階級別

	総数	出入口や通路の幅を広げる	エレベーターやエスカレーターを整備する	車いすの方や乳幼児を連れた方などを整備する	だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する	視覚障害者誘導用（点字）ブロックを整備する	視覚障害者・色弱者が、混同しやすい色の組み合わせを避け、線や文字などを併用した案内等を整備する	券売機や窓口を利用しやすくする	乗降場（駅のホームなど）と車両とのすき間や段差をなくす	乗降場（駅のホームなど）と車両の間に、転落・接触防止用のホームドアなどを設置する	バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する	バス乗り場などに、車両運行状況の表示装置を設置する	その他	無回答
総数	100.0 (1,710)	35.8	55.2	17.7	14.1	4.4	4.8	7.1	31.6	36.3	22.0	9.0	3.5	8.5
男	100.0 (667)	39.6	54.9	16.9	14.4	5.2	6.1	8.4	26.5	37.0	22.9	8.8	4.2	7.5
20～29歳	100.0 (42)	38.1	52.4	21.4	11.9	4.8	2.4	19.0	33.3	50.0	9.5	7.1	-	4.8
30～39歳	100.0 (88)	43.2	61.4	17.0	6.8	3.4	3.4	4.5	28.4	36.4	19.3	2.3	6.8	9.1
40～49歳	100.0 (109)	33.0	55.0	13.8	10.1	7.3	3.7	3.7	26.6	38.5	22.0	8.3	7.3	13.8
50～59歳	100.0 (115)	40.0	53.0	19.1	15.7	2.6	7.8	8.7	26.1	39.1	24.3	9.6	3.5	7.8
60～69歳	100.0 (136)	44.1	52.9	11.0	14.0	9.6	9.6	9.6	27.9	42.6	19.9	6.6	3.7	5.1
70～79歳	100.0 (106)	38.7	49.1	22.6	21.7	0.9	6.6	9.4	21.7	34.0	24.5	16.0	2.8	5.7
80歳以上	100.0 (71)	38.0	63.4	18.3	19.7	7.0	5.6	9.9	25.4	18.3	38.0	11.3	2.8	4.2
(再掲)65歳以上	100.0 (255)	40.8	53.3	17.3	17.6	5.9	7.5	9.8	25.5	31.0	27.8	11.8	2.7	4.7
女	100.0 (1,043)	33.5	55.4	18.1	13.9	3.8	3.9	6.3	34.9	35.8	21.4	9.1	3.1	9.2
20～29歳	100.0 (66)	34.8	60.6	18.2	10.6	3.0	7.6	4.5	31.8	34.8	10.6	4.5	-	7.6
30～39歳	100.0 (199)	33.2	64.8	25.1	8.5	1.5	1.0	3.0	36.7	29.1	13.6	6.5	1.5	13.6
40～49歳	100.0 (187)	33.2	54.0	11.8	8.0	3.7	2.7	4.8	39.6	37.4	12.8	6.4	4.8	12.8
50～59歳	100.0 (165)	37.0	60.6	20.6	13.3	6.1	3.6	7.9	29.1	44.8	15.8	10.3	6.1	4.2
60～69歳	100.0 (166)	26.5	59.0	22.3	16.9	6.6	6.0	8.4	34.9	46.4	22.9	11.4	1.8	3.6
70～79歳	100.0 (165)	37.6	45.5	14.5	20.6	3.6	6.7	9.7	34.5	30.3	37.0	12.1	1.2	7.9
80歳以上	100.0 (95)	32.6	36.8	10.5	23.2	1.1	2.1	5.3	34.7	22.1	42.1	11.6	5.3	14.7
(再掲)65歳以上	100.0 (349)	31.8	44.7	15.2	21.8	3.4	4.9	8.6	34.4	32.1	35.8	12.9	2.0	9.2

イ 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時グループ別

乳幼児連れグループは、「エレベーターやエスカレーターの整備」の割合が高く、約7割

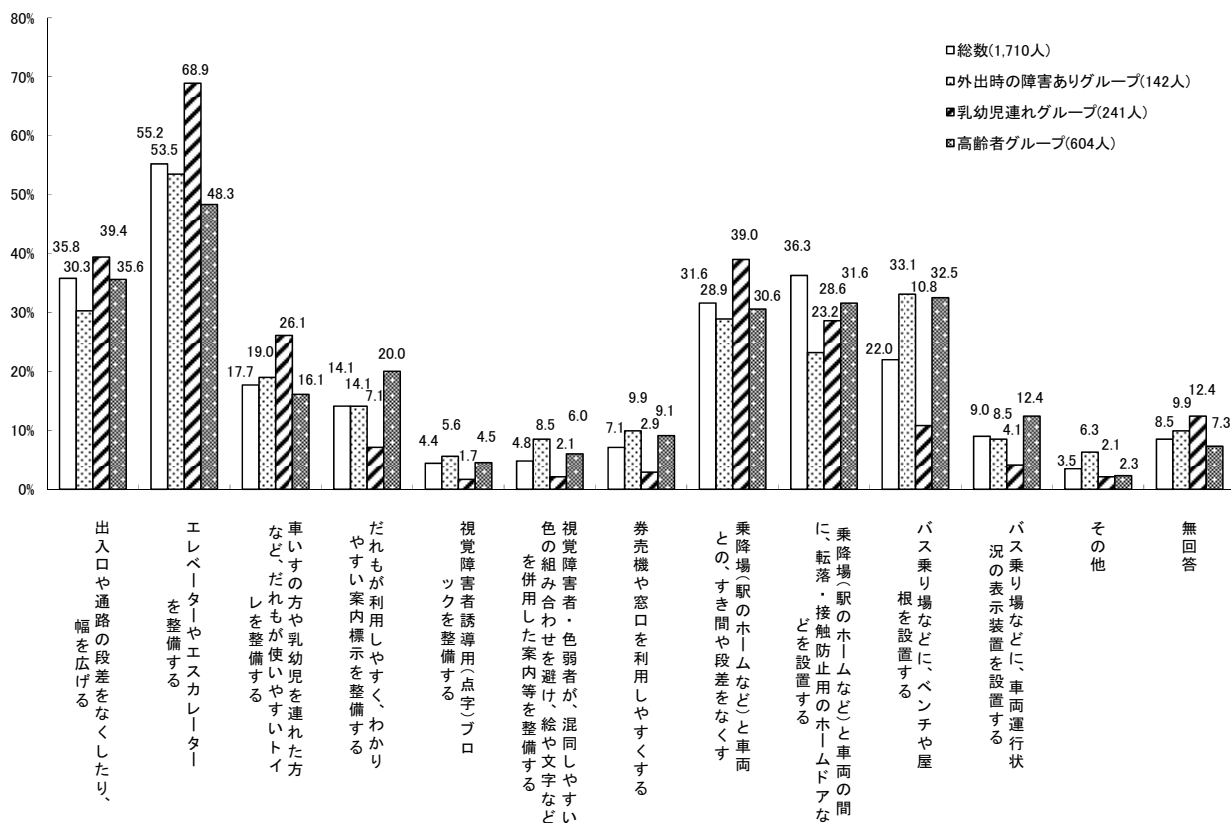
公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループは、「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」の割合が33.1%と、総数に比べて11.1ポイント高くなっている。

乳幼児連れグループは、「エレベーターやエスカレーターを整備する」が68.9%で、総数に比べて13.7ポイント高くなっている。

高齢者グループは、「だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する」が20.0%で、総数に比べて5.9ポイント高く、「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」が32.5%で、総数に比べて10.5ポイント高くなっている。（図Ⅱ-1-8）

図Ⅱ-1-8 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時グループ別



ウ 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

視覚に障害のある人は、「出入口や通路の段差をなくしたり、幅を広げる」の割合が最も高い

公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、外出時に何らかの障害がある人は、「エレベーターやエスカレーターを整備する」の割合が 53.5%で最も高く、次いで「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」が 33.1%となっている。

また、視覚に障害のある人は、「出入口や通路の段差をなくしたり、幅を広げる」の割合が 40.6%で最も高く、次いで、「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」の割合が 34.4%となっている。（表Ⅱ-1-15）

表Ⅱ-1-15 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

	総数	幅を 広げ る	エレ ベーター やエス カレーター を整 備する	車い すの 方 が 使 い や す い ト イ シ を 整 備 す る	だ れ も が 利 用 し や す く 、 わ か り や す い 案 内 標 示 を 整 備 す る	視 覚 障 害 者 誘 導 用 （ 点 字 ） ブ ロ ック を 整 備 す る	視 覚 障 害 者 ・ 色 弱 者 が 、 混 同 し や す い を 併 用 し た 案 内 等 を 整 備 す る	券 売 機 や 窓 口 を 利 用 し や す く す る	乗 降 場 （ 駅 の ホ ー ム な ど ） と 車 両 と の す き 間 や 段 差 を な く す	乗 降 場 （ 駅 の ホ ー ム な ど ） と 車 両 の 間 に 、 転 落 ・ 接 触 防 止 用 の ホ ー ム ド ア な ど を 設 置 す る	バ ス 乗 り 場 な ど に 、 ベ ン チ や 屋 根 を 設 置 す る	バ ス 乗 り 場 な ど に 、 車 両 運 行 状 況 の 表 示 装 置 を 設 置 す る	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (1,710)	35.8	55.2	17.7	14.1	4.4	4.8	7.1	31.6	36.3	22.0	9.0	3.5	8.5
外出時に何らかの障害がある	100.0 (142)	30.3	53.5	19.0	14.1	5.6	8.5	9.9	28.9	23.2	33.1	8.5	6.3	9.9
視覚	100.0 (32)	40.6	28.1	12.5	21.9	18.8	21.9	15.6	28.1	25.0	34.4	12.5	6.3	3.1
聴覚	100.0 (37)	43.2	54.1	16.2	18.9	2.7	8.1	10.8	29.7	13.5	40.5	18.9	2.7	8.1
肢体	100.0 (88)	26.1	53.4	21.6	15.9	1.1	3.4	6.8	36.4	22.7	29.5	8.0	5.7	12.5
内部	100.0 (51)	29.4	58.8	27.5	11.8	3.9	5.9	5.9	19.6	15.7	43.1	9.8	2.0	11.8
その他	100.0 (53)	34.0	35.8	13.2	13.2	3.8	7.5	11.3	22.6	24.5	30.2	11.3	11.3	15.1
外出時に障害がない	100.0 (1,556)	36.4	55.4	17.5	13.9	4.3	4.4	6.9	32.1	37.3	21.0	9.1	3.2	8.4

エ 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「エレベーターやエスカレーターの整備」の割合が最も高い

公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なことを外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「エレベーターやエスカレーターを整備する」の割合が 49.5%で最も高く、次いで「バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する」が 33.0%、「出入口や通路の段差をなくしたり、幅を広げる」が 32.1%となっている。（表Ⅱ-1-16）

表Ⅱ-1-16 公共交通施設（鉄道の駅、バス乗り場など）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

	総数	出入口や通路の段差をなくしたり、幅を広げる	エレベーターやエスカレーターを整備する	車いすの方や乳幼児を運んだ方などを整備する	だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する	視覚障害者誘導用（点字）ブロックを整備する	視覚障害者・色弱者が、混同しやすい色の組み合わせを避け、絵や文字などを併用した案内等を整備する	券売機や窓口を利用しやすくする	乗降場（駅のホームなど）と車両との、すき間や段差をなくす	乗降場（駅のホームなど）と車両の間に、転落・接触防止用のホームドアなどを設置する	バス乗り場などに、ベンチや屋根を設置する	バス乗り場などに、車両運行状況の表示装置を設置する	その他	無回答
総数	100.0 (1,710)	35.8	55.2	17.7	14.1	4.4	4.8	7.1	31.6	36.3	22.0	9.0	3.5	8.5
何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (109)	32.1	49.5	16.5	16.5	8.3	11.0	8.3	27.5	17.4	33.0	11.9	7.3	11.0
何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要としない	100.0 (1,589)	36.2	55.8	17.7	13.8	4.2	4.3	7.0	32.1	37.5	21.3	8.7	3.2	8.3

(5) 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

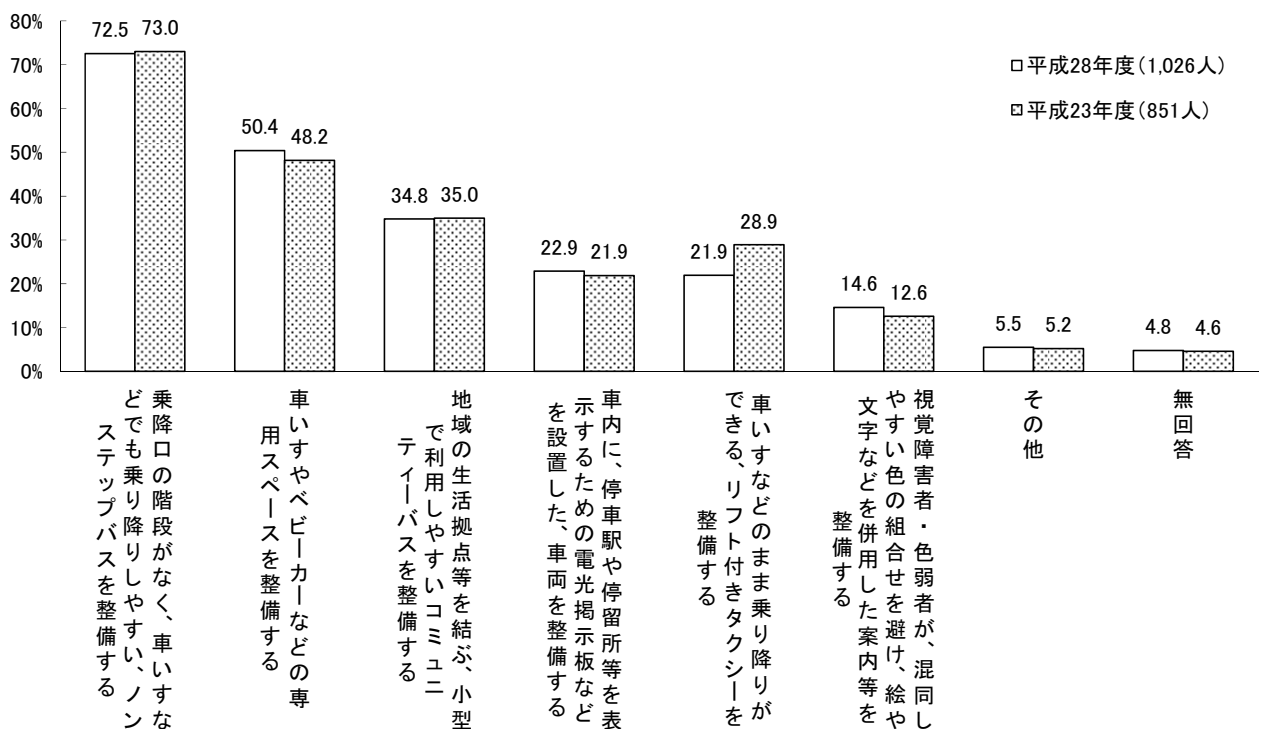
－平成23年度調査と比較

「ノンステップバスの整備」の割合が最も高く、7割

公共交通機関（電車・バスなどの車両）でバリアを感じるところが「ある」人（1,026人）に、公共交通機関を利用しやすくするためにどのような整備が必要だと思うか聞いたところ、「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすい、ノンステップバスを整備する」の割合が72.5%で最も高く、次いで「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」が50.4%となっている。（図Ⅱ-1-9）

図Ⅱ-1-9 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－平成23年度調査と比較



ア 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕 一性・年齢階級別

男女ともに「ノンステップバスの整備」の割合が最も高く、7割

公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なことを性別で見ると、男女ともに「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすい、ノンステップバスを整備する」がそれぞれ72.8%、72.4%で最も高く、7割となっている。

性・年齢階級別にみると、20代～30代では、「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」の割合が、男女ともに6割以上となっている。（表Ⅱ-1-17）

表Ⅱ-1-17 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

一性・年齢階級別

	総数	乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすい	車内、停車駅や停留所などを表示した、車両の電光掲示板を設置した、車両	車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する	地域の生活拠点等を結ぶ、バス、小型で利用しやすいコミュニティバスを整備する	車いすなどのまま乗り降りができる、フリット付きタクシーを整備する	視覚障害者・色弱者が、混同しやすい色の案内等を整備する	その他	無回答
総数	100.0 (1,026)	72.5	22.9	50.4	34.8	21.9	14.6	5.5	4.8
男	100.0 (389)	<u>72.8</u>	24.9	51.7	37.3	23.7	17.5	4.9	3.6
20～29歳	100.0 (29)	72.4	20.7	<u>62.1</u>	34.5	17.2	13.8	3.4	3.4
30～39歳	100.0 (45)	62.2	13.3	<u>64.4</u>	33.3	11.1	8.9	17.8	4.4
40～49歳	100.0 (59)	67.8	22.0	55.9	28.8	18.6	11.9	-	8.5
50～59歳	100.0 (62)	79.0	30.6	54.8	38.7	38.7	27.4	3.2	1.6
60～69歳	100.0 (74)	73.0	29.7	47.3	36.5	24.3	21.6	4.1	5.4
70～79歳	100.0 (70)	72.9	24.3	47.1	47.1	28.6	15.7	2.9	1.4
80歳以上	100.0 (50)	80.0	28.0	38.0	38.0	18.0	18.0	6.0	-
(再掲)65歳以上	100.0 (167)	76.6	28.1	43.7	41.9	24.6	18.0	3.6	1.2
女	100.0 (637)	<u>72.4</u>	21.7	49.6	33.3	20.9	12.9	5.8	5.5
20～29歳	100.0 (34)	64.7	29.4	<u>64.7</u>	20.6	8.8	14.7	11.8	5.9
30～39歳	100.0 (126)	69.8	10.3	<u>66.7</u>	23.0	16.7	7.1	7.9	5.6
40～49歳	100.0 (92)	68.5	19.6	42.4	30.4	15.2	13.0	6.5	12.0
50～59歳	100.0 (95)	75.8	23.2	47.4	29.5	24.2	15.8	7.4	4.2
60～69歳	100.0 (109)	65.1	22.0	48.6	43.1	22.0	21.1	3.7	2.8
70～79歳	100.0 (104)	77.9	32.7	48.1	41.3	26.9	11.5	2.9	3.8
80歳以上	100.0 (77)	83.1	22.1	29.9	39.0	26.0	7.8	3.9	5.2
(再掲)65歳以上	100.0 (236)	76.3	26.7	42.8	42.8	23.7	11.4	3.0	3.8

イ 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時グループ別

外出時の障害ありグループは、「ノンステップバスの整備」の割合が高く、8割超

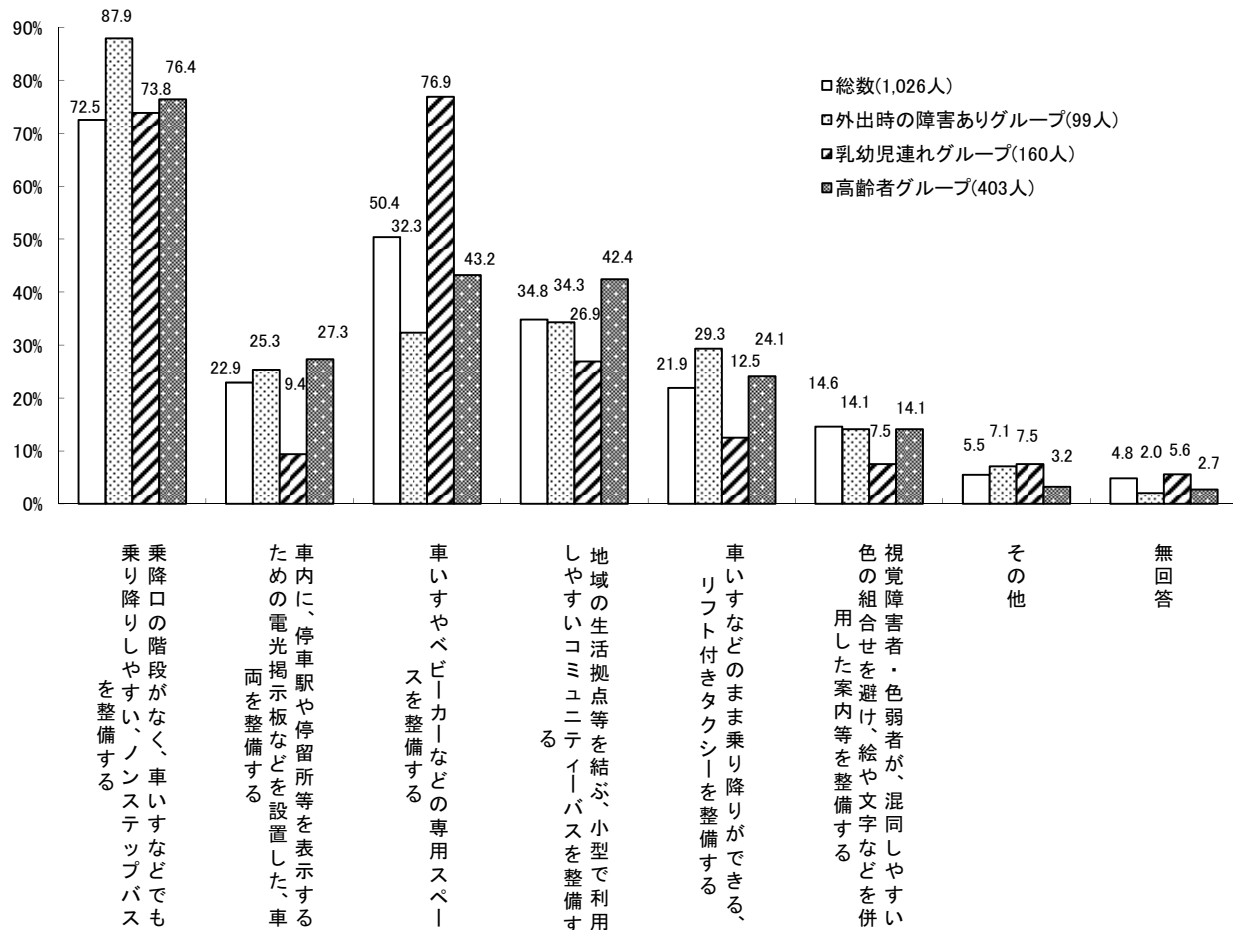
公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループは、「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすい、ノンステップバスを整備する」の割合が 87.9%で、総数（72.5%）に比べて、15.4ポイント高くなっている。

乳幼児連れグループは、「車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する」が 76.9%で、総数（50.4%）に比べて、26.5ポイント高くなっている。

高齢者グループは、「地域の生活拠点等を結ぶ、小型で利用しやすいコミュニティーバスを整備する」の割合が 42.4%で、総数（34.8%）に比べて、7.6ポイント高くなっている。（図Ⅱ-1-10）

図Ⅱ-1-10 公共交通機関（電車、バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時グループ別



ウ 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

すべての障害において、「ノンステップバスの整備」の割合が最も高い

公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、すべての障害において、「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすい、ノンステップバスを整備する」の割合が最も高くなっている。

「視覚障害者・色弱者が、混同しやすい色の組み合わせを避け、絵や文字などを併用した案内等を整備する」の割合は、視覚に障害がある人が 29.2%で最も高く、総数（14.6%）に比べて 14.6 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-1-18）

表Ⅱ-1-18 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

	総数	乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすい	車内に、電光掲示板や停留所などを設置した、車両を整備する	車いすやベーカーなどの専用スペースを整備する	地域の生活拠点等を結ぶバス、小型で利用しやすいコミュニティバスを整備する	車いすなどのまま乗り降りができる、リフト付きタクシーを整備する	視覚障害者・色弱者が、混同しやすい色を避け、絵や文字などを併用した案内等を整備する	その他	無回答
総数	100.0 (1,026)	72.5	22.9	50.4	34.8	21.9	14.6	5.5	4.8
外出時に何らかの障害がある	100.0 (99)	87.9	25.3	32.3	34.3	29.3	14.1	7.1	2.0
視覚	100.0 (24)	<u>75.0</u>	16.7	50.0	29.2	41.7	<u>29.2</u>	4.2	-
聴覚	100.0 (27)	<u>92.6</u>	22.2	51.9	33.3	33.3	11.1	3.7	-
肢体	100.0 (64)	<u>87.5</u>	23.4	31.3	31.3	29.7	7.8	6.3	3.1
内部	100.0 (37)	<u>83.8</u>	27.0	40.5	37.8	24.3	13.5	5.4	5.4
その他	100.0 (40)	<u>82.5</u>	27.5	30.0	30.0	32.5	17.5	5.0	5.0
外出時に障害がない	100.0 (919)	70.9	22.5	52.3	34.9	21.0	14.7	5.1	5.1

エ 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「ノンステップバスの整備」の割合が高く、約8割

公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なことを外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「乗降口の階段がなく、車いすなどでも乗り降りしやすい、ノンステップバスを整備する」の割合が79.2%で最も高く、約8割となっている。（表Ⅱ-1-19）

表Ⅱ-1-19 公共交通機関（電車・バスなどの車両）で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

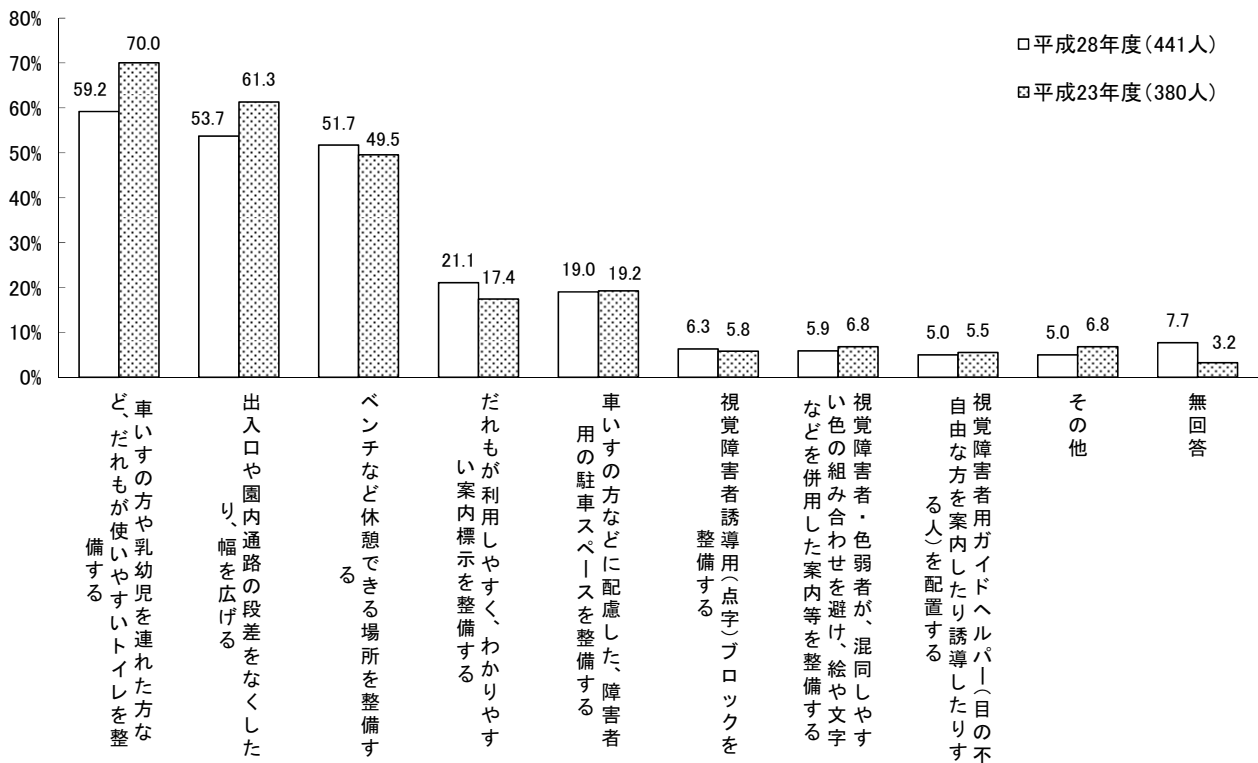
	総数	乗降口の階段がなく、ノンステップバスでも	乗降口の階段がなく、ノンステップバスでも	車内に、停車駅や停留所等を表示した、車両を整備する	車いすやベビーカーなどの専用スペースを整備する	地域の生活拠点等を結ぶバス、小型で利用しやすいコミュニティバスを整備する	車いすなどのまま乗り降りができる、リフト付きタクシーを整備する	視覚障害者・色弱者が、混同しやすい色組合せを避け、絵や文字などを併用した案内等を整備する	その他	無回答
総数	100.0 (1,026)	72.5	22.9	50.4	34.8	21.9	14.6	5.5	4.8	
何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (77)	<u>79.2</u>	22.1	41.6	32.5	22.1	18.2	6.5	3.9	
何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要としない	100.0 (943)	72.0	22.8	51.1	35.0	21.7	14.3	5.3	4.9	

(6) 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕－平成23年度調査との比較

「だれもが使いやすいトイレの整備」が最も高く、約6割

公園でバリアを感じるところが「ある」人(441人)に、公園を利用しやすくするためにどのような整備が必要だと思うか聞いたところ、「車いすの方や乳幼児を連れた方など、だれもが使いやすいトイレを整備する」の割合が59.2%で最も高く、次いで「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」が53.7%、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」が51.7%となっている。(図Ⅱ-1-11)

図Ⅱ-1-11 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕－平成23年度調査との比較



ア 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕－性・年齢階級別

男女ともに「だれもが使いやすいトイレの整備」の割合が最も高い

公園で整備が必要なことを性別でみると、「車いすの方や乳幼児を連れた方など、だれもが使いやすいトイレを整備する」の割合が、男性は 56.9%、女性は 61.1%で、男女ともに最も高くなっている。

また、「車いすの方などに配慮した、障害者用の駐車スペースを整備する」の割合は、男性 24.3%、女性 14.6%で、男性の方が 9.7 ポイント高くなっている。(表Ⅱ-1-20)

表Ⅱ-1-20 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	出入口や園内通路の幅を広げたり、段差をなくし	ベンチなど休憩できる場所を整備する	車いすの方や乳幼児を連れた方など、だれもが使いやすいトイレを整備する	だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する	視覚障害者誘導用（点字）ブロックを整備する	視覚障害者・色弱者が、混同しやすい色の組み合わせを避け、絵や文字などを併用した案内等を整備する	車いすの方などに配慮した、障害者用の駐車スペースを整備する	視覚障害者用ガイドヘルパー（目の不自由な方を案内したり誘導したりする人）を配置する	その他	無回答
総数	100.0 (441)	53.7	51.7	59.2	21.1	6.3	5.9	19.0	5.0	5.0	7.7
男	100.0 (202)	54.0	55.0	<u>56.9</u>	23.8	8.4	7.4	<u>24.3</u>	5.0	4.0	5.9
20～29歳	100.0 (16)	37.5	68.8	68.8	12.5	31.3	-	12.5	6.3	12.5	6.3
30～39歳	100.0 (18)	72.2	55.6	66.7	11.1	-	5.6	16.7	11.1	5.6	-
40～49歳	100.0 (26)	57.7	38.5	53.8	19.2	7.7	3.8	26.9	3.8	7.7	15.4
50～59歳	100.0 (28)	64.3	35.7	60.7	10.7	14.3	3.6	25.0	7.1	3.6	10.7
60～69歳	100.0 (43)	62.8	58.1	62.8	25.6	7.0	11.6	27.9	7.0	2.3	-
70～79歳	100.0 (39)	41.0	59.0	56.4	28.2	5.1	7.7	30.8	-	-	5.1
80歳以上	100.0 (32)	43.8	68.8	37.5	43.8	3.1	12.5	18.8	3.1	3.1	6.3
(再掲)65歳以上	100.0 (100)	49.0	64.0	52.0	31.0	6.0	10.0	26.0	2.0	1.0	4.0
女	100.0 (239)	53.6	49.0	<u>61.1</u>	18.8	4.6	4.6	<u>14.6</u>	5.0	5.9	9.2
20～29歳	100.0 (7)	57.1	57.1	57.1	-	14.3	-	14.3	-	-	-
30～39歳	100.0 (50)	52.0	50.0	70.0	10.0	2.0	6.0	12.0	2.0	6.0	8.0
40～49歳	100.0 (43)	55.8	25.6	65.1	14.0	4.7	2.3	9.3	2.3	7.0	14.0
50～59歳	100.0 (26)	65.4	38.5	69.2	15.4	7.7	7.7	11.5	-	7.7	15.4
60～69歳	100.0 (36)	58.3	69.4	66.7	22.2	-	11.1	13.9	13.9	5.6	-
70～79歳	100.0 (41)	58.5	53.7	46.3	34.1	9.8	-	26.8	4.9	4.9	7.3
80歳以上	100.0 (36)	33.3	55.6	50.0	22.2	2.8	2.8	13.9	8.3	5.6	13.9
(再掲)65歳以上	100.0 (91)	45.1	56.0	47.3	27.5	5.5	1.1	20.9	9.9	6.6	8.8

イ 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別

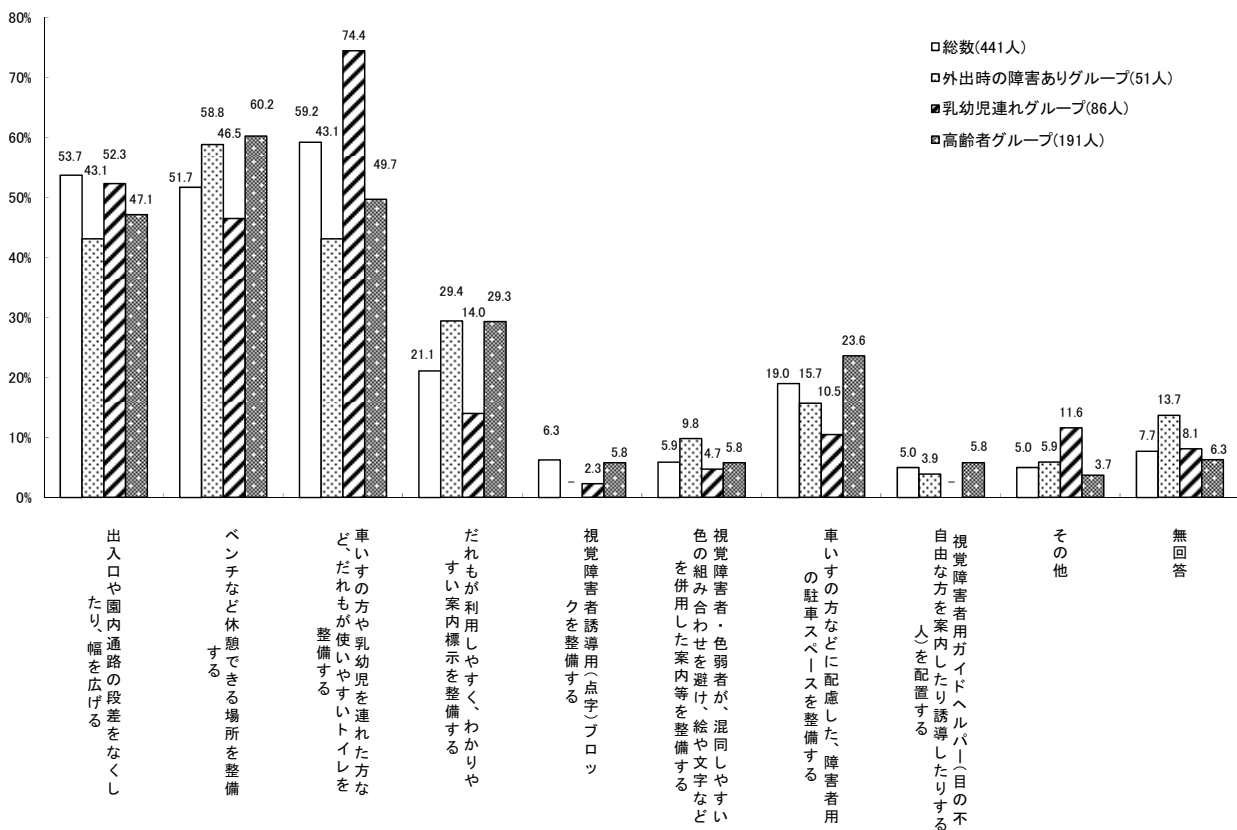
乳幼児連れグループは、「だれもが使いやすいトイレの整備」の割合が、7割

公園で整備が必要なことを外出時グループ別にみると、外出時の障害ありグループは、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」の割合が58.8%で最も高くなっている。

乳幼児連れグループは、「車いすの方や乳幼児を連れた方など、だれもが使いやすいトイレを整備する」が74.4%で、総数(59.2%)に比べて15.2ポイント高くなっている。

高齢者グループは、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」が60.2%で、総数(51.7%)に比べて8.5ポイント高くなっている。(図Ⅱ-1-12)

図Ⅱ-1-12 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕－外出時グループ別



ウ 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

外出時に何らかの障害がある人は、「ベンチなど休憩できる場所の整備」の割合が高く、5割超

公園で整備が必要なことを外出時の障害の有無別にみると、外出時に何らかの障害がある人は、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」の割合が 58.8%で最も高く、次いで、「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」、「車いすの方や乳幼児を連れた方など、だれもが使いやすいトイレを整備する」がともに 43.1%となっている。（表Ⅱ-1-21）

表Ⅱ-1-21 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の障害の有無（視覚・聴覚・肢体・内部・その他）別

	総数	た 出 り、 幅を 園内 通路 の段 差を なく し	す ベン チな ど休 憩で きる 場所 を整 備	整 車い すの 方 や 乳幼 児を 連 れた 方 な ど、 だ れも が 使 い や す い ト イ レ を 整 備 す る	す だ れも が 利 用 し や す く 、 わ か り や	ク 視 覚 障 害 者 誘 導 用 （ 点 字 ） ブ ロ ッ ク を 整 備 す る	を 色 の 組 み 合 わ せ を 避 け 、 混 同 し や す い な ど を 併 用 し た 案 内 等 を 整 備 す る	の 車 い す の 方 な ど に 配 慮 し た 、 障 害 者 用 の 駐 車 ス ペ ー ス を 整 備 す る	人 自 由 な 方 を 案 内 し た り 誘 導 し た り す る 視 覚 障 害 者 用 ガ イ ド ヘル パー （ 目 の 不 明 確 な 方 を 案 内 し た り 誘 導 し た り す る	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (441)	53.7	51.7	59.2	21.1	6.3	5.9	19.0	5.0	5.0	7.7
外出時に何らかの障害がある	100.0 (51)	43.1	58.8	43.1	29.4	-	9.8	15.7	3.9	5.9	13.7
視覚	100.0 (12)	66.7	58.3	33.3	66.7	-	16.7	16.7	-	8.3	-
聴覚	100.0 (17)	64.7	52.9	41.2	41.2	-	29.4	23.5	5.9	5.9	-
肢体	100.0 (30)	36.7	50.0	40.0	36.7	-	10.0	6.7	6.7	3.3	23.3
内部	100.0 (18)	44.4	61.1	61.1	38.9	-	5.6	22.2	-	-	11.1
その他	100.0 (14)	28.6	57.1	50.0	35.7	-	7.1	14.3	-	14.3	21.4
外出時に障害がない	100.0 (384)	55.2	50.0	61.5	19.5	7.3	5.2	19.5	5.2	4.9	7.0

エ 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「ベンチなど休憩できる場所の整備」の割合が最も高い

公園で整備が必要なことを外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別にみると、何らかの理由があるために、外出の際、支援や理解の必要がある人は、「ベンチなど休憩できる場所を整備する」の割合が 50.0%で最も高く、次いで「車いすの方や乳幼児を連れた方など、だれもが使いやすいトイレを整備する」が 47.1%、「出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる」が 44.1%となっている。(表Ⅱ-1-22)

表Ⅱ-1-22 公園で整備が必要なこと〔複数回答〕

－外出時の何らかの理由による支援や理解の必要性の有無別

	総数	出入口や園内通路の段差をなくしたり、幅を広げる	ベンチなど休憩できる場所を整備する	車いすの方や乳幼児を連れた方など、だれもが使いやすいトイレを整備する	だれもが利用しやすく、わかりやすい案内標示を整備する	視覚障害者誘導用（点字）ブロックを整備する	視覚障害者・色弱者が、混同しやすい組み合わせを避け、絵や文字などを併用した案内等を整備する	車いすの方などに配慮した、障害者用の駐車スペースを整備する	視覚障害者用ガイドヘルパー（目の不自由な方を案内したり誘導したりする人）を配置する	その他	無回答
総数	100.0 (441)	53.7	51.7	59.2	21.1	6.3	5.9	19.0	5.0	5.0	7.7
何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要とする	100.0 (34)	44.1	50.0	47.1	29.4	5.9	5.9	8.8	2.9	11.8	14.7
何らかの理由により、外出時に支援や理解を必要としない	100.0 (402)	54.5	51.2	60.4	19.9	6.5	5.7	19.9	5.2	4.5	7.2

